

2003年1月16日

各位

新規 HIV 治療薬についてグラクソ・スミスクライン社  
と全世界での開発・販売提携に関する契約を締結

小野薬品工業株式会社（本社：大阪府中央区）は英国グラクソ・スミスクライン社（GSK 本社：ロンドン）と、小野薬品が創製した新規 CCR5 受容体拮抗剤である ONO-4128（HIV 治療薬として前臨床試験段階）ならびにそのバックアップ化合物の全世界での開発・製造・販売に関するライセンス契約を締結しましたので、お知らせいたします。

今回の提携は、本剤を世界規模で開発するには、HIV 領域において開発経験が豊富で、しかも販売実績のある欧米の大手製薬企業に導出した方が早期の上市が可能と考えた小野薬品と、従来の HIV 治療薬とは全く異なるメカニズムを有する新規性の高い化合物の獲得でパイプラインの充実を図りたいとする GSK の双方の意向が一致したことによるものです。

GSK は契約に基づき、全世界で ONO-4128 を独占的に開発・製造・販売する権利を取得する一方、小野薬品はその見返りとして契約一時金、マイルストーン支払い（臨床試験段階および申請段階）を受けるとともに、全世界での年間売上げに応じたロイヤルティーを受け取ります。また GSK が HIV 以外の領域で開発する場合、小野薬品は別途マイルストーン支払いを受けます。

尚、小野薬品は HIV 以外の領域で ONO-4128 ならびにバックアップ化合物を日本・韓国・台湾で独占的に開発、事業化する権利を留保しています。

ヒトの細胞がエイズウイルスに感染する際には、その細胞膜にある CCR5 と呼ばれる受容体への結合が重要であることがこれまでの研究で明らかになっています。

ONO-4128 はゲノム創薬技術を用いて創製された低分子化合物で、エイズウイルス自体の増殖を抑制する従来の抗エイズ薬（逆転写酵素阻害剤・プロテアーゼ阻害剤）とは異なり、エイズウイルスが結合する CCR5 受容体に拮抗することで、ウイルス感染を防ぐ経口剤です。また、従来薬ではウイルスの急速な突然変異に伴って薬剤耐性が問題となる場合がありましたが、本剤の標的である CCR5 はヒト免疫細胞の表面（細胞膜）に存在するため、変異ウイルスの出現による薬剤耐性の可能性は低いと考えられています。

GSK は今後、FDA への IND 申請を経て今年上半期にも第 相臨床試験に入る予定です。

以上

小野薬品工業株式会社  
広 報 室  
TEL : 06-6222-5551  
FAX : 06-6222-2875